



夏からお集まりで気温を伝えています。最近では一桁の数字を聞いて「寒いね」と感じたり「今日は〇度って聞いたよ」「夕方はもっと寒くて雪が降るかもしれないから傘持ってきた」と子どもたちそれぞれが、さまざまな視点から寒さを感じ言葉にする姿が見られるようになってきました。寒さをきっかけに、身の回りの自然現象である「霜」について、簡単な実験も行いました。実際に試してみることで、「どうしてだろう」「今日はできているかな」と子どもたちの興味や気づきが広がっています。また、お正月遊びでは、にじ組さんに投げコマ・けん玉・お手玉を見せてもらいました。その影響もあり、部屋の中でも挑戦する姿が増え、「できるようになったよ!」と嬉しそうに報告して

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

「社会生活との関わり」

幼児期の終わりにまでに育ってほしい「10の姿」の中に「社会生活との関わり」という項目があります。

これは、家族を大切にしたり、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになったりする姿のことを示しています。家庭内だけではなく、様々な人との関わりやふれあいを通じてつながりを広げ、社会性を育んでいきます。お正月、おじいちゃんおばあちゃんに会ってたくさん楽しい時間を過ごしたり、どんど焼きを見に行ったりというのも、こうした力につながる経験となります。お散歩で行った縄文の村で、お掃除している職員さんに挨拶をしたり、何をしているのかな?と興味を持ったり。

先日は、職場体験の中学生が遊びに来てくれて、子どもたちと遊んでくれました。保育園生活の中での様々な経験が、「社会とのつながりの意識」へと繋がっていったほしいと思っています。

わらべうたって?

大人や友だちとふたりで一緒に遊んだり、大きな集団で楽しんだり、様々なシチュエーションでわらべうたを楽しんでいる子どもたち。

わらべうたは、昔から子どもたちのそばにあり、大人と子どもが同じ時間、同じリズムを共有できるあそびです。

繰り返しの言葉やゆったりとした節回しは子どもにとって心地よく、気持ちが落ち着いたり、安心して人と関わることができたり、言葉やリズム感が自然に育つといった良い影響があります。

今回は、これまで遊んだわらべうたや、これからやる予定のわらべうたをいくつかご紹介させていただきます。

22 かりかりわたれ



◆自由歩き◆

広い空間があれば、大人が先頭に立ってうねり歩きや8の字歩き。園庭では、池や砂場のまわりを歩くこともできる。狭い所では、大人が先頭でうずまき歩きなど。

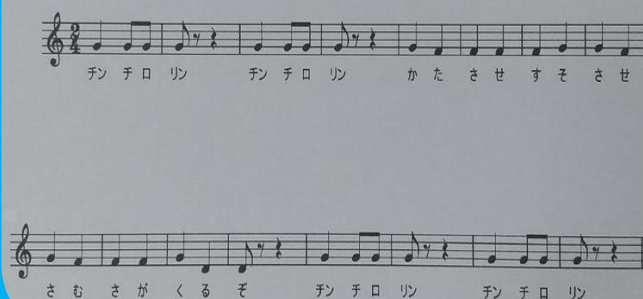
◆隊伍を組んでの遊び◆

渦を巻き、またほどこいていく。先頭の子を中にできるだけけ回くずをまく。すっかりまききったら1度歌を止め、しっぽの子を先頭に輪をまきもどす。もどったら先頭だった子がすぐに鬼きめをし、次の先頭を決める。鬼きめをした子はしっぽになる。

かりは冬鳥でがんというのが正式な名称です。保母はがんの習慣や姿の特徴を知り、頭に描けるようにしましょう。



♪ チンチロリン ♪



♪チンチロリン チンチロリン
かたさせすそさせ さむさが くるぞ
チンチロリン チンチロリン♪

鬼が輪の真ん中で目を閉じて周りの子供たちがベルの音が鳴らないように回していきます。歌の最後にベルを持っている子が鳴らして、鬼は聞こえてくる方向を指で指します。当たったら鬼を交代。
鬼になりたくてベルを回さない子もいまし